市民談話室

投稿ください　市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽にお寄せください。採用分には薄謝を差し上げます。ページの都合で、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一三三五　白根市役所企画財政課広報広聴係です。

広報しろねを読んで

戦争は遠くなりぬ『赤紙』もう一つの見方

小林丈三さん（東笠巻新田・農業・76歳）
成沢素明さん（東笠巻新田・会社員・65歳）

広報しろね三月一日号の記録アラカルト『古い赤紙』を興味深く読みました。ところで私たちはあの記事を読み、古い記録をたどりながらもう一つの見方をしました。

昭和十三年ころ、召集状発令の予報が役場に入り、それが夜にかかる場合、役場玄関に高張提灯に灯を入れ、令状の到着を待機したことを覚えております。

昭和十三年ころでもこのようであったことから想像して、それ以前はもっと緊張が要求され、召集の予報が入ると、休日あるいは夜間では役場全職員に登庁令が出されたのではないかと思います。登庁した職員が、高張提灯をつけて令状の到着を待つはりつめた顔が目に浮びます。記録アラカルトの『赤紙』は、登庁令すなわち役場職員を呼ぶ召集状と見ることも、できるのではないでしょうか。

『戦後はまだ終らない』という言葉がある反面『戦争は遠くなりぬ』と思うことも、平和を願う心とともに真実ではないでしょうか。

広報しろね3月1日号で紹介した『古い赤紙』

記憶があります。

そして到着した赤紙（令状）は早速用務員によって応召者に届けられ、そしてその家には「祝入営」ののぼりが立ち、数日後には日の丸に署名したたすきをかけ、部落の鎮守様で歓送会の後、軍歌に送られつつ、駅で熱狂的な万歳の中を出発し、悲しくも感激のドラマ

年老いて　長生きしたい百歳までも

大野広平さん（新飯田館・農業・78歳）

年老いて何が楽しいか、また何が苦しいかと思うとき、私は何と言っても自分の思うことがつぶさに行かないことだろうと思います。

昼間は思うままに仕事をし、夜は入浴した後、たまに杯を持って一杯。何という良い気持ちでしょうね。ありがたや、ありがたやと感謝の気持ちでいっぱいです。

今は無き同級生のみなさんを思うとき、次々と他界され、私の地区には私一人となってしまいました。小学校卒業のときは、確か男子は二十三人だったと思います。寂しいことです。

他地区へ行かれて健在の友が二人おられるので、ともに連絡を取り合いながら、一日も長生きしたいと思っています。

世の中は思うように行かないものですね。

ああ　我は願う
友とともに百歳までも

私の健康法

入浴前に冷水を浴びて健康そのもの

相田敏夫さん（松橋・農業・66歳）

このほど完成する新しい根岸地域生活センターに期待する一人です。研修や集会、健康づくりのためのゲートボールもできるとか。本当に楽しみなことです。

私の健康法ですが、医師に聞けば良いか悪いかはわかりませんが、毎晩風呂に入るときに、水道の水をゆっくり飲んで、足の先から徐々に上の方に腹から胸、肩から背中へとホースで水をかけます。肛門も忘れずに、体が冷たくなるくらいに水をかけています。

年中、夏冬を問わずやっていますが、もう四、五年続けています。風邪はもちろん病気一つしたことがありません。以前、痔で困ったことがありましたが、今は悩まされることもなくなりました。

この時期に始めるのは適当ではありませんが、夏の暑いころから始めたら良いと思います。だれがやっても良いというわけでもありませんので、健康な方にお勧めします。

はつらつレディー

商いと家事に忙しい毎日

阿部ミノエさん（酒販業・一の町）

清酒やビールの入ったケースは重く、女性にとって倉庫からの出し入れや配達はつらい仕事だ。

「嫁いで十六年になりますが、決して楽しい仕事ではなかったですね。やらなければならないんだと、自分に言い聞かせながらやってきました。応対と重い物を持つ仕事のせいか、精神的に落ちつかないことが多かったですね」と語る阿部さん。

朝起きてから午後九時三十分に店を閉めるまで休む暇もない。疲れてくたくたになっても、家事や帳簿の整理は休むわけにはいかない。「特に忙しくなるのは、凧合戦のころと、八月と十二月。でも商いが多ければ、疲れなんかは吹っ飛んじゃいますよ」

家庭に入れば、三人の子の母。「長男は今年高校一年生。子供たちのことで頭がいっぱい……私のいきがいです」と、笑顔がこぼれる。

「でも、店があるとまとまった時間がなかなか取れなくて……楽しみと言ったら、友だちとのおしゃべり。それにお花のおけいこでしょうね。さて、また配達に行かなくっちゃ」と、ビールを車に積んで、さっそうと配達に出かけていきました。

母と子の会話

わがままと自己主張の区別を

今の子供は、わがままで、がまんすることが苦手だと言われます。わがままな性格は、親の過保護――甘やかされて育った子供に多いようです。

親にしてみれば、かけがえのない子供という意識が先行し、子供のためなら精いっぱいのことをしてやろう、子供が喜ぶのなら何でもきいてあげようといった気持ちが、ややもすると、子供の〝ごきげんとり〟に終始してしまうのです。

こういう子供は〝何でも思い通りになる〟親の心は理解できても、同じ年ごろの友だちの気持ちはなかなか理解できません。その結果、子供たちの間では利己主張が強すぎて、協調性を欠き、みんなと一緒に仲よく遊べなくなったりします。

このようなわが子のわがままに困りぬいて、お母さん方の多くは、抑圧的な態度で一方的におさえつけるようになりがちです。ここで気をつけたいのは、わがままな利己主張と正当な自己主張を区別して受けとめてやることです。

頭ごなしにしかる前に子供の言い分をよく聞いて、納得できるところは受け入れ、わがままな面は話し合いを通して子供にわからせることが大切です。

おかあさんといっしょ
入山芳子さんと元夢くん（1歳2か月・上下國訪木）